

本件は東京都、世田谷区、渋谷区、杉並区と同時発表しています。

2019年5月30日

京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業により高架化する7駅の 新しい駅舎の外観デザインを決定しました！

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、社長：紅村 康）では、東京都、世田谷区、渋谷区および杉並区と連携し、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業（以下：本事業）を進めています。

このたび、本事業において新たに高架化する7駅（代田橋駅、明大前駅、下高井戸駅、桜上水駅、上北沢駅、芦花公園駅、千歳烏山駅）の外観デザインを決定しました。

外観デザインの策定にあたっては、新しく生まれ変わる駅が街の玄関口として地域の皆さまに親しまれ、長く愛される駅となるよう計画しました。

引き続き、事業区間の高架化に向けて、安全に工事を進めていきます。

詳細は下記のとおりです。

1. 新駅舎の外観デザイン（イメージパース）とデザインのポイント

（1）代田橋駅



【デザインのポイント】

レンガ調や透明感のある素材を組み合わせることで、近隣の歴史的な建築物や玉川上水の流れを感じさせるデザインとしました。

（2）明大前駅



【デザインのポイント】

透明感のある素材をリズムカルに組み合わせることで、街の賑やかさと移り変わりが間近に感じられるデザインとしました。

(3) 下高井戸駅



【デザインのポイント】

温かな色彩の大庇を街へ向けて広げることで、賑わいのある商店街との繋がりを表現したデザインとしました。

(4) 桜上水駅



【デザインのポイント】

木質調等自然と調和する質感や柔らかな配色により、静かな住宅街と共存するデザインとしました。

(5) 上北沢駅



【デザインのポイント】

落ち着いた色合いと透明感のある素材を組み合わせることにより、地元のシンボルである桜並木が映えるデザインとしました。

(6) 芦花公園駅



【デザインのポイント】

木質調の縦格子を連ねることで書架を表現し、文学にゆかりのある街を感じさせるデザインとしました。

(7) 千歳烏山駅



【デザインのポイント】

温かみのある配色と開放感のある粗目の格子により街との一体感を演出し、賑わいのある街に溶け込むデザインとしました。

※これらのパースは現時点でのイメージであり、実際とは異なる場合があります。

2. お客様のお問い合わせ先

京王電鉄株式会社 鉄道事業本部 工務部 連続立体交差工事事務所

TEL. 03-3329-5030 (平日9:15~18:00)

【参考1】外観デザイン策定の経緯

外観デザイン策定にあたり、沿線にお住まいの方などのご意見を参考にさせていただきました。

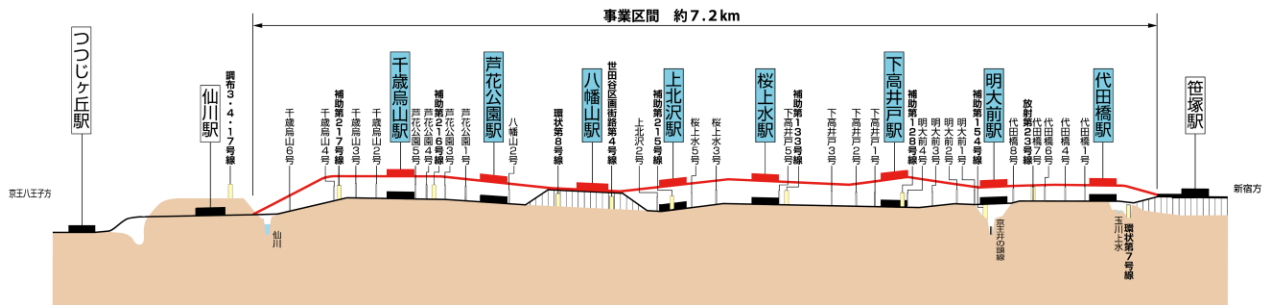
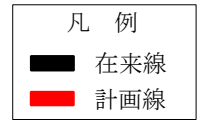
- ・2017年9月 駅舎デザインのアイデア募集
(京王線沿線まちづくり通信第15号：世田谷区発行)
- ・2018年9月～11月 駅舎デザイン(案)に対する意見募集
(京王線沿線まちづくり通信第17号：世田谷区発行)

【参考2】各駅の概要

駅名	開業日	所在地	1日平均乗降人員 (2017年度)
代田橋駅	1913年4月15日	世田谷区大原2-18-9	20,123人
明大前駅 (京王線)	1913年4月15日	世田谷区松原2-45-1	61,969人
下高井戸駅	1913年4月15日	世田谷区松原3-29-17	45,586人
桜上水駅	1926年4月25日	世田谷区桜上水5-29-52	39,110人
上北沢駅	1913年4月15日	世田谷区上北沢4-14-3	15,859人
芦花公園駅	1913年4月15日	世田谷区南烏山3-1-16	14,587人
千歳烏山駅	1913年4月15日	世田谷区南烏山6-1-1	82,167人

【参 考 3】京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業について

京王では、東京都及び地元区とともに、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業を実施しています。この事業は京王線の笹塚駅～仙川駅間約7.2 kmを高架化することにより、25箇所の踏切を除却するとともに7箇所の都市計画道路を立体化し、あわせて側道を整備するものです。



縦断図